［認知症対応型共同生活介護用］

1．評価結果概要表

作成日　平成 21年　3月　12日

【評価実施概要】

事業所番号	2072800549		
法人名	社会福祉法人梓の郷		
事業所名	グループホームサルビア		
所在地	長野県松本市梓川倭3234番地15 （電　話）　0263-78-7288		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成21年3月5日	評価確定日	平成21年3月29日

【情報提供票より】（平成21年 1月31日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成 13年 12月　1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤　7人，　非常勤　1人，　常勤換算　7.4人	

（２）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2階建ての　～　1階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	50,000　円		その他の経費（月額）	水道光熱費20,000円
敷　金	有（　円）	(無)		
保証金の有無（入居一時金含む）	有（　円） (無)		有りの場合償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,000　円			

（４）利用者の概要（平成21年 1月31日現在　）

利用者人数	9 名	男性	0	女性	9 名
要介護１	0		要介護２	0	
要介護３	6		要介護４	3	
要介護５	0		要支援２	0	
年齢	平均　82.9 歳	最低	75 歳	最高	98 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	・医療法人岡野医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

槍ヶ岳を源流にした梓川が流れる大糸線梓川駅近くにグループホームサルビアがある。昼間は殆どの入居者がホームの共有空間で過ごしている。そこからはずっと昔から見てきた常念岳、北アルプス連峰の風景が遠望できる。ドア一つで併設施設に続いており、冬期間や天気の悪い日は施設へお邪魔し屋内散歩ができる。法人内外の様々な研修が行われているのでホームの職員も積極的に参加し研鑽に励んでいる。複合施設ならではのメリットが数多くある。地元のボランティアがホームの花壇や畑の土作りから野菜作りまで手伝っている。年々地域との交流の輪は広がってきている。その人らしさを実現するために本人の思いや家族の気持ちになって支援している温かなホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	地域密着型サービスの理念を職員全員で話し合い、ホーム独自の理念に作り変えられた。認知症予防介護教室も依頼があれば管理者が出向くよう取り組んでいる。介護計画の見直しは本人の状況に合わせて適宜見直しが行われるように改善された。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価は職員全員で行ない職員の意識合わせやケアの見直しを行うことができた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	運営推進会議は利用者家族、地域代表者、地域包括支援センター職員、有識者が委員となり行われている。ホーム活動報告や課題を出し相談している。参加者からは好意的な意見や助言を得ることができ、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	家族の意見はどんな事でも伺うようにしている。面会など家族が見えたときには必ず声をかけて話しをするようにしている。得られた意見や要望はその都度話し合い運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	町会に加入し会費も納めている。地域の一員として地域の中にとけ込めるよう取り組んでいる。小中学生との交流やシルバーの集いへの参加、近くの野菜直売所に入居者と共に買物に出かける等、地域の方と接する機会を多くつくり、馴染みの関係づくりに努めている。

2． 評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容（すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で地域密着型サービスの理念を確認した上で、入居者が地域との関りを継続しながら自立した生活が送れる内容を謳ったホーム独自の理念に作り変えた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送りやミーティング、会議の際に話し合いながら理念を共有し、具体的なケアに取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の際のホームへのお誘いや行事案内の回覧板を隣組に届けている。シルバーの集いや三九郎等の地区行事、サルビア祭などで地域の人々と交流している。小中学生との交流の場もある。ホームの花畑や畑の土作りを地元のボランティアとともに行っており、入居者との交流に繋げている。地域の人々との結びつきを大切に考え、場を広げている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員の異動がある中で、管理者は職員全員に評価の意義や目的を伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。評価を全職員で行ったことでケアの改善点も見つかり、サービスの質の向上に活かすことができている。また、前回の外部評価を踏まえ、改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今年度4回開催されている。生活状況や現在取り組んでいることについて報告し、意見をいただき、サービスの向上に繋げている。市に会議の報告書を提出している。	○	地域に密着したホームとして市や地区の運営推進委員の理解を得ながら会議の回数を更に増やし、２ヵ月毎に開催出来るよう体制を整備していただくことを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所支所で開催される連絡会には管理者が出席し、地域包括支援センターや居宅のケアマネージャーと近隣5ヵ所のグループホーム出席者とともに情報交換をしている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年3回、「グループホーム新聞」を送っている。写真とともにコメントや入居者の状況が載っており、家族からはとても喜ばれている。ホーム玄関には訪れた家族が気軽に話が出来るようなコーナーがある。金銭管理については家族に確認していただき認め印をいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の後に家族会が引き続き開かれ、管理者が同席し意見や要望を伺っている。家族は何か感じていることがあれば家族会まで待たずに面会時に伝えている。家族とホームとの間には何でも気軽に話し合える関係が築き上げられている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動についてはグループホーム新聞で家族等に知らせている。やむを得ない職員の交代により入居者へのダメージが一時的に現れてしまったが、職員の努力により徐々に解消された。	○	異動に関しては馴染みの関係が保てるように極力最小限に抑える対応を望みます。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修については法人が積極的に取り組んでおり、職員の資質向上を図っている。また、外部研修もあり、職員を養成する研修の機会は多い。研修会に出席する時は出張扱いとなる。ホームでも月1回勉強会を設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの勉強会や相互研修が行われており、職員が交替で参加している。また、相互評価も行なっている。情報の交換や体験学習などで得たことはサービスの質の向上に役立てている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と御家族に来ていただき、ホームの様子を見ていただいたり職員から話しを聞いていただいたりして入居に到っている。入居後も外出・外泊を自由に取り入れながら徐々に馴染んでいただいている。ホームに慣れるまではご家族に電話で様子を知らせている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員は双方向の支え合う関係を築いている。野菜の収穫時期の品定め、針仕事等、生活の知恵を聞いたり、教えてもらっている。職員も出来ることを役割分担し、お互いに感謝の言葉をかけあっている。入居者から人を誉めることや挨拶の仕方、気配り等を教えられたことがある。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1. 一人ひとりの把握**					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との日常の関わりの中で本人の気持を汲み取り、思いや意向等を推察しながら本人本位に検討している。家族からの情報も参考にし、生活を支えるために話し合いを重ねている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望・意見を聞いたり、全職員で意見を出し合い介護計画を作成している。月1回のホームの職員会議では各入居者についてモニタリングを行い、思いや意見を反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変化した時はプランを見直し、新たに現状に即した介護計画を作成している。以前は6ヶ月毎の見直しであったが、現在は一人ひとりの状況を見ながら適宜見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設と協働し介護教室を開き、介護方法や介護保険制度、認知症等に関しての話を地域住民に伝えている。医療機関への受診については家族が付き添えない際、家族に代わり同行している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。定期的に往診もあり適切な医療が受けられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の意思を確認し、家族の希望でホームでの看取りを行ったことがある。併設施設との看取りの勉強会ではホームからの事例として発表した。看護師のいない中での実践は参加者には驚きのようであった。看取りの実践は良い経験となり今後の礎となった。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** **(1)一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報や守秘義務について会議・ミーティング等で伝え学習している。入居者の誇りを損なわないような言葉がけや対応に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、本人の気持ちを優先している。体調に注意しながら一人ひとりの思いを大切に対応をしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食、夕食は併設施設の厨房から届くのを盛り付けている。昼食のみ職員と一緒に作っている。食事はゆっくり時間をかけ、テレビは消して落ち着いて食事が出来るようにしている。ほぼ食べ終る頃になるとテレビを点け、連続ドラマを見ながら食べ終わるのを待ち、まだ食事をしている入居者に失礼のないよう席を立たない配慮がみられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ひのき、ゆづ、みかんの入浴剤を利用し香りを楽しみ入浴している。また、季節感の溢れる菖蒲湯や林檎湯もある。マンツーマンで昔話を聞いてくれる職員との入浴は楽しい時間となっている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お茶入れや食事づくり、盛り付け等、ホームの生活の中で一人ひとりの役割があり、それが張り合いであり生甲斐にも繋がっている。家族や地域の方に手伝っていただいた花畑・野菜畑は入居者の楽しみである。ボランティアによるそばうちや生け花、ピアノ演奏などがあり、入居者の楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物に出かけたり天気の良い時は車椅子の入居者も近所の散歩に出かけている。喫茶店や外食など本人の希望に応じて外出している。冬季間出かけられない時は併設の施設内を一回りするだけで程よい散歩となる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出しそうな入居者には職員が一緒に散歩する等、チームでの見守りに徹している。昼間はホーム玄関の施錠はしていない。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年2回、法人の地域防災協定にに基づいて併設施設と一緒に避難訓練を行っている。火事を出さないためのチェック項目を作り、電気、ガス、消火器等の点検チェックを行っている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量はチェック表に記録し、その情報を職員が共有している。管理栄養士の献立による食事が提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く、玄関、居間、食堂には花が飾られている。炬燵があり、桃の節句の雛飾りも置かれ季節感がある。食堂の大きくゆったりした椅子の居心地が良い。ホーム内には音楽が静かに流れ、落ち着いて過ごせるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には才気溢れる絵手紙や達筆な習字が飾られていたり、使い慣れた小物を持ち込んだりと住みよい環境づくりが行われている。ボランティアの先生から教えてもらい、枝ぶりや木の幹の美しい生け花を飾った居室も見られた。		

※ ▢ は、重点項目。